

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

ドバイワールドCデイへ向けた地元の前哨戦が行われた「スーパー・サタデー」(3月10日、メイダン競馬場)で、全7レース中3レースを制したチャーリー・アップルビー調教師が、今月のこのコラムの主役である。

1975年7月5日に英国のサウサンプトンで生まれたアップルビー師は、現在42歳。アマチュア騎手として平地競馬やポイントトゥポイント競走に参加した後、22歳の時にゴドルフィンの組織に入。ステーブルヘッドラッド、トラヴェリン・ヘッドラッド、アシスタンントを経験した後、2013年7月にトレーナーに昇格している。

昇格の背景にあったのは一大スキヤナルで、シェイク・モハメドのお抱え調教師のひとりだったマーク・アル・サルーニの管理馬11頭から、ドーピング検査で禁止薬物のアナボリック・ステロイドを検出。查問に対し薬の使用を認めたザルーニ師は、主催団体であるBHAから、競馬との関わりを8年間にわたって絶つべしという、実質的には永久追放に等しい重い処分を受けたのだった。

この時、ザルーニ師が拠点としていたムルトン・パックスと称される厩舎と、180頭の管理馬を引き継ぐことになったのが、アップルビー師だった。不祥事に沈む組織を立て直すという重責を担つた彼だけたが、当人に言わせると、それほど大きな重圧を感じていなかつたそうだ。と言う

のも、目的がはつきりしていたからで、まずはG1を勝つこと、そして、種牡馬となれるような馬を育てることが自分の仕事と心得て、そのために何をすべきかに日々取り組むことになった。

開業後まもなく、キャップオラッシーズでグッドウッドのG3コードンSを制して重賞初制覇。その年の秋には、アウトストリップでG1BCジュヴェナイルターフを制し、G1初制覇を果している。以降、チャーミングソート、トリスター、ホーケビル、ソーベツ、ウエダといったG1勝ち馬を育ててきたアップルビー師は、現在はドバイにもマークーム・ステーブルスという独自の調教施設を構え、管理馬の水準を向上させている。

そのアップルビー厩舎の現在の充実振りが如実に現れたのが、スーパー・サタデーだ。G1アルクオーツスプリント(芝1200m)への向けた前哨戦ナドアルシバスプリント(芝1200m)を制したジャングルキヤット(牡6、父イフラージ)は、2歳時から重賞戦線に顔を出していながら勝ち味に遅く、重賞入着を11回重ねた末、今季初戦となったG2アルファヒディ・フェオート(芝1400m)でようやく重賞初制覇を果した馬だ。そしてナドアルシバスプリントも制し、「善戦マン」キャラをすっかり払拭した上で、G1アルクオーツスプリントに向かうことになった。

G1ドバイターフ(芝1800m)の前哨

戦となるG1ジエベルハタ(芝1800m)を制したブレアハウス(セ5、父ビヴァタル)は、英国のオッズで17倍の5番人気という伏兵だった。いうのも、これが重賞初挑戦だからで、前走までと比べて格段に強い馬たちを相手に、鋭い瞬発力を繰り出して優勝。ゴール前の切れ味が活きる展開になれば、G1ドバイターフでも侮れない存在となる。

そして、G1ドバイシーマクラシック(芝2410m)の前哨戦となるG2ドバイシティオ・ゴールド(芝2410m)を制したのが、ホーケビル(牡5、父キトウンズジョイ)だった。3歳時に制したG1エクリップスS(芝9F2009Y)を含めてこれが通算5度目の重賞制覇という実績馬で、これが半年の休み明けであつたことを鑑みれば、G1ドバイシーマクラシックでは更に上質のパフォーマンスを見せるはずだ。

更に、G2 UAEダービー(d1900m)に、おそらくは1番人気として登場するのが、2月15日にメイダンで行われたG3 UAE二千ギニー(d1600m)を10/2を1.1馬身差で制した、アップルビー厩舎のゴールドタウン(セ3、父ストリートクラフト)なのだ。

ドバイワールドCデイでは、アップルビー軍団が日本馬の前に立ちはだかる光景が、幾度となく展開されるかもしだれ